

情報処理技術者試験センター (JITEC) の概要

平成15年8月

財団法人 日本情報処理開発協会

情報処理技術者試験センター

1. センター概要

- (1) 設 立： 昭和59年4月
- (2) 予 算： 51億円(平成15年度^(注) 情報処理技術者試験センター特別会計)
- (3) 役員数：1人(常務理事1名)
職員数：71名 平成15年8月6日現在

試験事業費 (15年度予算： 37億円)

情報処理の促進に関する法律に基づく「情報処理技術者試験」の実施(年2回)。

情報処理技術者試験のアジア展開事業費 (15年度予算： 1億円)

情報処理技術者試験とアジア各国との相互認証の推進及びアジア各国間の試験制度の標準化に必要な調査等の実施。

(注)： 平成15年4月～12月までの9ヶ月間の予算額である。

2. 事業概要

試験の実施

情報処理技術者試験は、ソフトウェア技術者の技術の向上を目的として昭和44年に創設。昭和45年以降、国家試験として実施。

試験事務については、昭和59年4月、情促法第6条第2項に基づいて通商産業大臣が指定試験機関として財団法人日本情報処理開発協会を指定し、試験問題の作成、実施、採点等の試験事務を実施(4月及び10月、全国300カ所余の試験会場で実施)。

試験制度創設以来、IT技術者の能力開発指標、客観的な評価指標として定着。その**応募者は年間80万人に及ぶ**(平成14年度実績)。情報サービス企業をはじめ、産業界においてもその取得を推奨している企業が多い。

平成14年度までの応募者は累計で約1,093万人、同約115万人が合格。

試験区分

情報処理技術者試験は、育成すべき技術者の技能水準にあわせて以下のような13の試験区分に分けて実施されている。

独立

情報システム開発・運用

情報システム利用側

システム監査技術者試験

システムアナリスト試験

プロジェクトマネージャ試験

アプリケーション
エンジニア試験

テクニカルエンジニア試験

ネットワーク

データベース

システム管理

エンベデッドシステム

情報セキュリティ

アドミニストレータ試験

上級システム

アドミニストレータ試験

ソフトウェア開発技術者試験

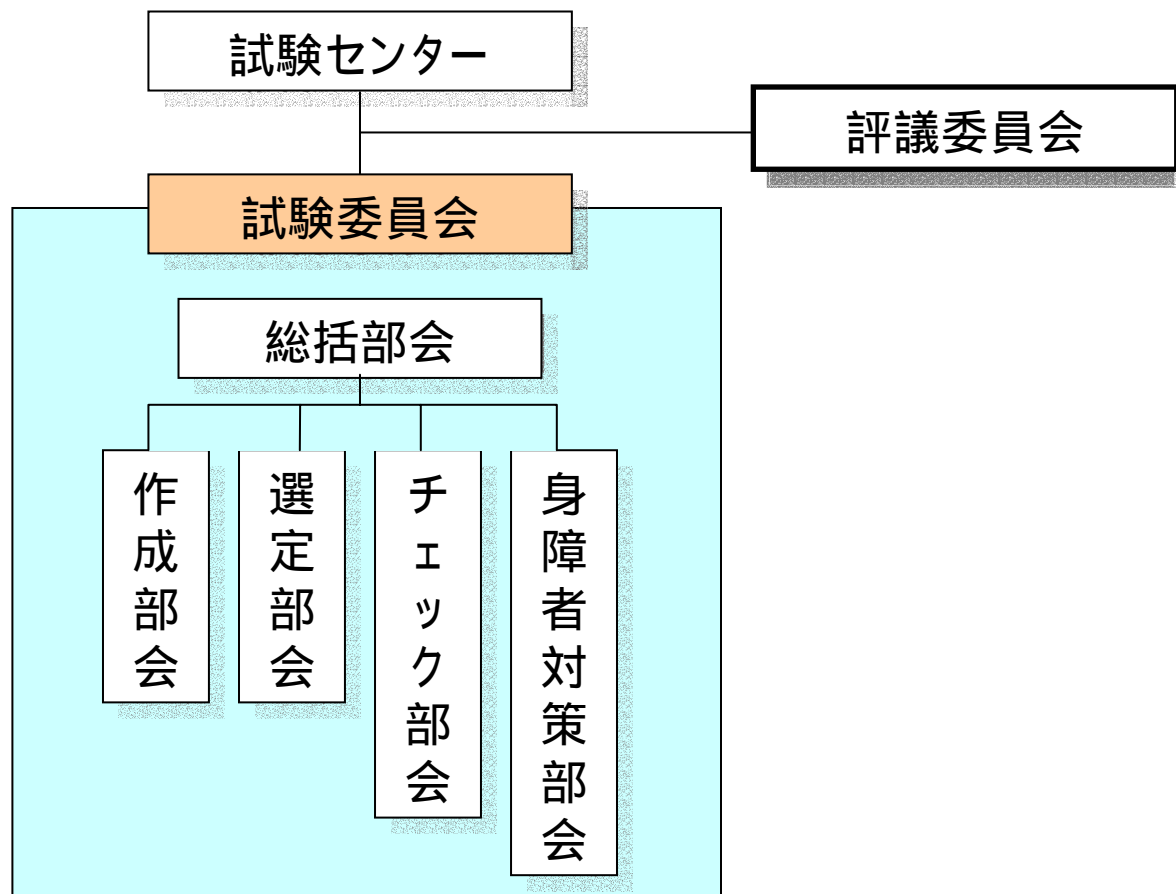
基本情報技術者試験

初級システム

アドミニストレータ試験

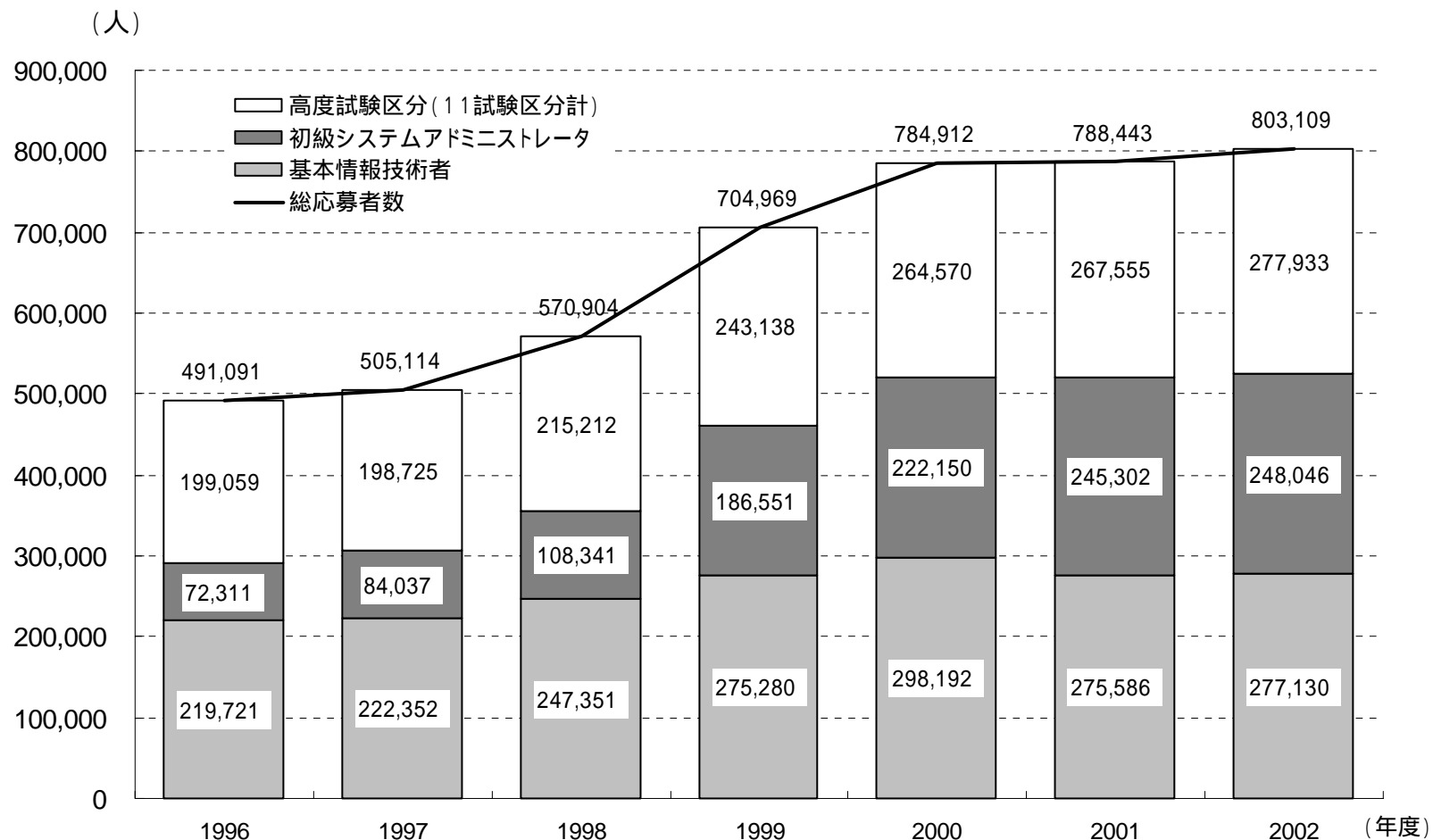
問題作成体制

センターでは民間企業の専門家等約400名で構成される試験委員会(委員会数35)及び外部有識者7名で構成される評議員会からなる試験問題作成体制のもと、良質な試験問題の作成に努めている。



3. 情報処理技術者試験 応募者数の推移

96年度以降の応募者数の推移を見ると、2000年度まで大幅な増加を続けたものの、その後はほぼ横ばいの推移となっている。足下の2002年度の総応募者数は過去最高の80万人に達している。



注)： 高度試験区分とは、全13試験区分から初級システムアドミニストレータ及び基本情報技術者を除いた11試験区分の合計

4. 民間IT技術者試験との共存

高度情報化社会におけるIT技術者として必要な共通事項についての知識認定を体系的に行う情報処理技術者試験に対し、ITベンダー等が行う民間IT試験は個別製品を使いこなすための知識・技能の修得を目指すものであり、両者の果たす役割は基本的に異なる。

